

2月の保育日はあと5日となってしまいました。

年度末で大切な時期です。

一日も早くコロナの影響が少なくなってくれる事を願っています。

子どもたちの体調を整えてあげて、

毎日楽しい園生活を送れるよう よろしくおねがいします。

■ これまでは、冬のあそびとなると雪かきを主として取り組んで来ておりました。

平岸高台にあつたTV局の西側の広い斜面をあそびの場としておりました。

ところが、今年は東山への改築工事の影響により、その斜面は全面的に小学校の専有の場になりましたので、使うことは出来ません。

園庭に山を造ったの対応をしました。

子どもたちは、うれしいですね！

年長児からつぼみのおとたちまでみんなが喜々としてあそびに熱中してくれました。

■ コロナの影響で、ルネカに代わってハンドルに取り組んでいる年長児たちです。

決して子どもたちにとっては、ポピュラーな活動ではありません。

子どもたちにとって、指導する立場にとって、易いものではありません。

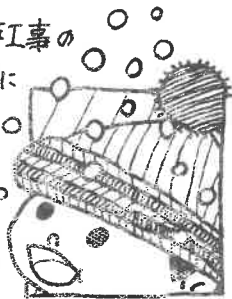
子どもたちは譜面を読めなくてはなりません。

音符のリズムを知らなければなりません。

音程をしっかりと身に付けなければなりません。

そして、一番大切な事は、指導を受ける子どもたち一人ひとりが、指導する教師の話しをしっかりと聞く事が出来ると言事です！これが出来れば子どもたちは応えてくれます！

つぼみ、年少児から育んできました♡



## 「君が代」は千年続く愛のうた

「君が代」に込められた本来の意味を、一人でも多くの人に知ってほしいという思いで、「君が代」をテーマにした絵本の出版を決意した白駒 妃登美(株)こぼぎ代表さんが、次のように言っております。

「君が代」の本歌は、平安前期に編纂された『古今和歌集』に収められています。その歌は、最初の文字が「君が代」ではなく「わが君は」で始まります。

「わが君は」には「わが」に「君は」という意味があり、「わが君は」という表現は、当時主に女性が愛する男性に対して使う呼び名でした。「愛するあなた、あなたの命がいつまでもいつまでも永く続きますように、たとえ言えば、小さな石が集まって永く時間をかけた大きな岩となり、その上、苔が生えるようになるまで」となります。

つまり「天皇の御代を壽く歌」というのは後から付けられた意味で、本歌に込められた意味は違っています。そのことになった歌は、千年以上前に生きた人物が、心から誰かを愛し、その気持ちを込めた歌なのです。そして、『古今和歌集』の編纂からおよそ1世紀が経った1013年頃、「わが君は」が「君が代」と手を加えられて登場したのです。

「わが君は」は、恋人や夫婦など男女間で愛する人のことを指す言葉です。ところが「君」となると意味が変わります。「あなた様の時代がいつまでも続きますように」という一族の繁栄を祈る歌になりました。日本で初めて天皇の命によって編まれた和歌集は『古今和歌集』です。その中で、人気があったのが、「君が代」の本歌で、詠み人知らずの「わが君は」の歌でした。

さう一首、『古今和歌集』の中で絶大な人気を誇った歌が、次の歌です。知る人ぞ多いです。「みさかたの光のどけき春の日に青心なく花の散るまむ」という歌です。これは「春の穏やかな光の中で、桜の花びらがさっと散っていく。なぜ、散るに散り急ぐのか」と愛を惜しむ歌ですね。これは、紀友則と言っ指折りの歌人の歌で、かたは詠み人知らず、かたは有名な歌人の歌なのです。

世界各国から、好評の日本の国歌、こぼぎ生い立ちなのです。